

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成24年度農作物病害虫発生予察情報について

平成24年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成24年度農作物病害虫発生予報第3号

平成24年5月31日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.5%、発病度が0.02)。なお、補植用置き苗での発病率は9.1%であった(過去10年間の発病率：平成14～15年は未確認、平成16年は4.8%、平成17～23は未確認)。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.1%、発病度が0.1)。なお、補植用置き苗での発病率は14.3%であった(過去10年間の発病率：平成13～22年は未確認)。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。

- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は4.0%, 25株当たり成虫数は0.02頭で平年(20.6%, 0.6頭)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が75.0%, 寄生株率が43.3%であり、平年(58.2%, 13.5%)と比べて高めの発生である(過去10年で一番高い)。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率14.0%, 寄生株率0.2%)。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 通常の発生であれば、特に防除は必要ない。多発した場合には、食葉性害虫等の防除に併せて薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%, 寄生葉率が0.9%であり、平年(29.2%, 5.2%)よりやや低めの発生である。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い(前年より遅い)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月21日に初確認された(平年：5月15日, 前年：5月19日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合には発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合には35～40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、旧葉での発生圃場率は37.5%、寄生葉率は10.1%で、ほぼ平年(41.3%, 6.0%)並の発生である。

(2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年より早い)

発生量 平年並～やや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において、ツヤアオカメムシは上板町では平年(4月23日)と同時期の4月23日に、勝浦町では平年(4月25日)より早い4月24日に、チャバネアオカメムシは上板町では平年(4月26日)より遅い4月28日に、勝浦町では平年(4月26日)より遅い4月27日にそれぞれ初誘殺を確認した。

(2) 5月25日発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、天気は数日周期で変わり、その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少ないと予測されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹カメムシ類が多発する年は、幼果期にあるカンキツ類はもとより、間もなく収穫期を迎えるウメ等への被害も大きいので、防除を励行する。

(2) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。

(3) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

(4) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

[ツヤアオカメムシの予察灯への誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年
5.1	97	0	12	5	34	13	0	23	6	51	54	10	70	21	87
5.2	166	2	57	42	86	34	7	0	32	82	14	3	138	35	57
5.3	53	59	6	130	57	15	3	81	36	52	6	1	17	20	
5.4	71	25	381	51	123	5	6	1	17	20	28	33	28	83	
5.5		6	126	9	86										
5.6		1	10	60	108										
6.1		28	33	28	83		5	14	9	18					

[チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年	2012年	2011年	2010年	2009年	平 年
5.1	22	0	2	0	10	13	0	1	3	21	54	12	6	46	48
5.2	22	3	10	17	49	34	11	0	86	44	14	5	13	11	18
5.3	3	8	0	33	25	15	5	17	4	22	0	1	4	10	
5.4	7	0	61	12	47	2	1	5	5	22					
5.5		0	124	3	64										
5.6		0	3	5	49		0	1	4	10					
6.1		10	47	5	25		2	1	5	22					

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では, 発生圃場率は100%, 葉の被害度は13.6であり, 平年(72.8%, 6.2)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめ, 天気は数日周期で変わり, その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並, 降水量は多く, 日照時間は少ないと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く, 特に5～6月が少雨の年に多発し, 残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では, 発生圃場率は88.9%, 葉の被害度は7.2であり, 平年(44.0%, 1.5)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 5月25日発表の1ヶ月予報では, 期間のはじめ, 天気は数日周期で変わり, その後は平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並, 降水量は多く, 日照時間は少ないと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 被害発現を遅らせる。

- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。